



東京都畜産試験場  
環境畜産部 齋藤 紅  
未



## ○職場の紹介

当試験場は青梅市に本場と、それとは別に気候風土の異なる島しょの畜産を振興するために三宅島に分場を設置しています。環境畜産部としては、畜産における環境保全と資源循環型社会づくりという視点から堆肥化処理技術の開発を行っています。その一環として、都庁職員食堂から出る生ごみ・茶殻を堆肥化するパイロット事業を都有機農業堆肥センター、農業試験場などと協力しながら進めています。また、都市近郊の畜産では、ふん尿等が発生源となっている悪臭の防除といった環境保全技術の確立が強く求められており、微生物を利用した悪臭防除試験を行っています。

## ○担当分野の紹介

優良堆肥の生産技術の確立を目的として、廃棄有機物資源を利用した家畜糞の堆肥化試験を担当しています。具体的には、おが屑に代わる資材の検索を含む、都市畜産に適した(小規模経営にも対応できる)効果的で低コストな処理技術の開発を行っています。

## ○成果の概要

都市からは大量の古紙が排出されます。都ではリサイクル推進のために清掃局が主導を握って、古紙余剰問題の解決の糸口を探すべく、古紙敷料の実用性についての試験依頼がありました。農家の方を招いた説明会では、清掃局側と農家の方との間に十分な意思の疎通が図れず、畜産・耕種両方の農家の方にとっては信用しきれない資材として目に映ったものと思われず。

実際に古紙を敷料として用い、その後に堆肥化を行いました。結果から言うと堆肥化は順調に進行し、おが屑の代替品としての可能性が示唆されました。さらに、畜産農家に適した効果的な方法の検索のために、切返し頻度の違いによる影響、メッシュバックを用いた処理についても検討を行いました。切返し頻度の違いによる影響は当初、切り返し頻度が高いほど効果が上がるものと思っていましたが、試験の時期が冬であったこともあって当场での通常の維持管理との差は認められませんでした。また、メッシュバックを用いた堆肥化では搬出した敷料とふん尿との混合物が十分に攪拌されていなかったために堆肥化がうまく進まず、メッシュバックを使用するには十分な比重調整もしくはそれに代わる何らかの対策を講じる必要があったのであろうと後になって気付きました。まだきちんとした成果は上がっていませんが、試行錯誤をしながら試験を進めている最中です。

## ○農家や普及員の方との交流

なかなか実際の農家を訪れる機会がないため、普及員の方が環境分野をメインとして農家を訪ねる際にはできるだけ同行させていただくようにしています。特に最近では環境三法が制定されたこともあって、堆肥化処理装置を設置したいのだけれど、とか浄化槽の調子が悪くてといった相談が舞い込んでくるようになってきました。まだアドバイスができるほどではありませんが、話を伺ったりサンプルを持ち帰って分析を行ったりと、少しずつですが農家との関わりを持っていけるように心掛けています。実際には畜産環境アドバイザーの知識だけでは解決しきれない問題にも突き当たり、そういった際には自分の経験のなさを痛感します。